

マ
リ
ア

MARIA

クリムゾンコミックス



自分の住む世界を守るため
FD界にのりこんできたマリアたち。
しかしマリア達は勝てなかった。
仲間たちは全滅

マリアだけ生かされ
その稀有な存在ゆえに
彼らの研究対象とされた。





MARIA

作 / カーマイン

彼らの研究対象とされた。

いやはや
驚きだな…

マリアII
トレイター
か…

まさか
エターナルスフィアから
本当にあらわれて
くるとはな…

にわかに
信じがたい
話だが…



記だが……

け：研究とか言って
結局こういう
目的なわけ？

長門...





ふふふ…

ぶる
ぶる

何を…!

くっ…!

キミはもともと
我々のつくった
プログラム

我々創造主の手に
かかれば
お前のパラメータを
変化させることは
造作もないことだ

ひっ…!

最低ね…!

ドッ

どんどん
感度を上昇
してあげよう

ぶる
ぶる

ほらほら

どうした？
まだ何も
さわったり
してないのに…

ただ
プログラムを
いじってる
だけだぞ？

ぶる
ぶる

ぶる
ぶる



反抗してくる
女の体を
自分好みに
いじって

んんっ!!

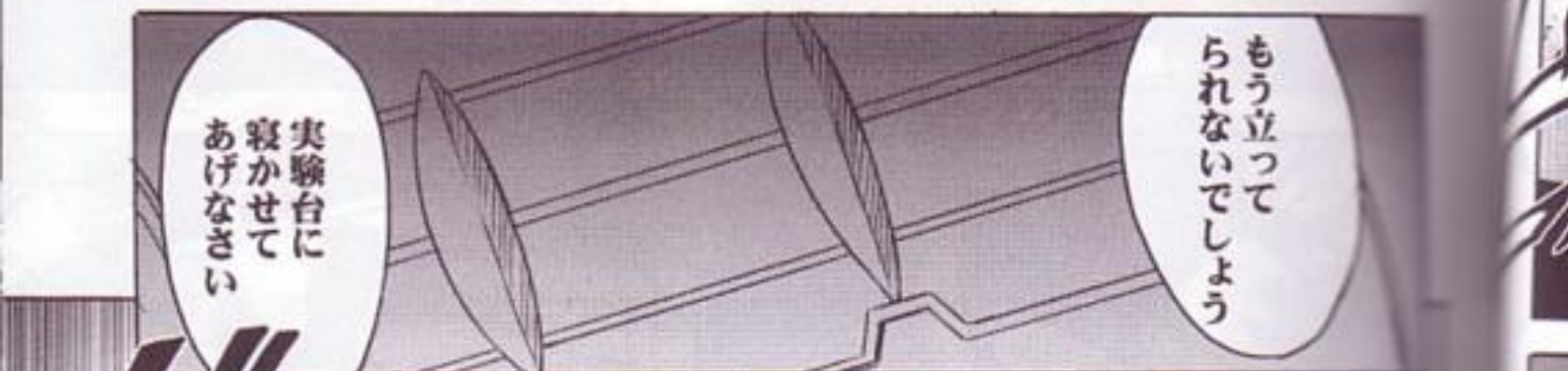
フフフ…
こいつは楽し
みですなあ

その後は…

んっ!

ほあ

ほあ



もう立って
られないでし
ょう

実験台に
寝かせて
あげなさい

ガッ



いいねえ
すぐに潮とか
ふいちゃうよう
にしておきますか?

いや
ちよとガマン
できるほうが
面白いでしょう

ほあ

ほあ

るん



さてと…
そろそろ
ジャマなものは
がして…



創造主にたいして
やめなさい…
とはね



どうも銀河系では
何かの独立組織の
リーダーだった
みたいですね

なるほどねえ



あつ！

や…
やめなさい！



スッ



さてでは
そろそろ
本格的に…

スッ



ドキッ



いやあ私
気に入っちゃい
ましたよ
このキヤラクター

青い髪が
いいですねえ

ぶる
ぶる



法律が厳しくてねえ

こういう性的虐待は
厳しく罰せ
られるんだが

キミのように
人権のないものなら
問題ない

たいした気の
なげですな



乳首なんかにつけたら大変なことになりそうだな

キッ やっ!



どうだ??



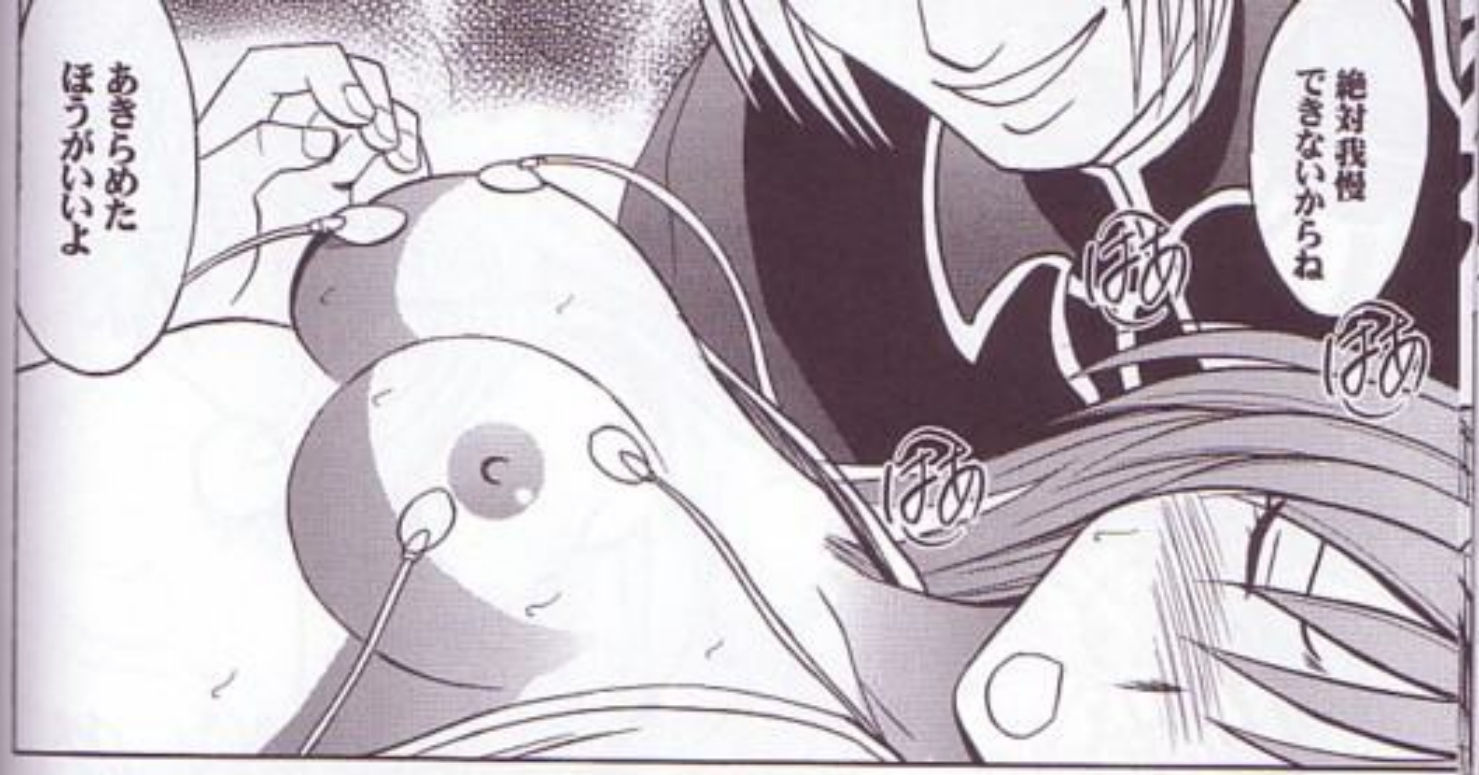
快感が直接流れ込んでくるだろう?



びる
びる

絶対我慢
できないからね

あきらめた
ほうがいいよ



なっ！



こんなこと
してッ…
絶対に…

や…
やめなさいッ！



許さない…！！



女性器
準備OKです

流し込んで
くださーい





いいように
弄ばれてる……!

ぶる
ぶる

くっ……!

まだまだ
足りないかな?

もっともっと
気持ちよくして
あげようか?

や……やめっ!

これがFD人と
私たちの力差
なの……?

ビュッ
ビュッ

ビュッ
ビュッ





.....!



「やめさない」って
言ってたのが
「やめて」に
なりましたな

もう屈服して
きたのか
つまらないなあ



誰が…
あなた達
なんか…!

私は
絶対に…!



あー!!



その意気だよ

もっと
楽しませて
くれよ

ダメだ…
快感が
拒めない…!!

ほあ

ほあ

ビクッ

んっ!

ぶる

ぶる

くっ!

ぶる

ぶる

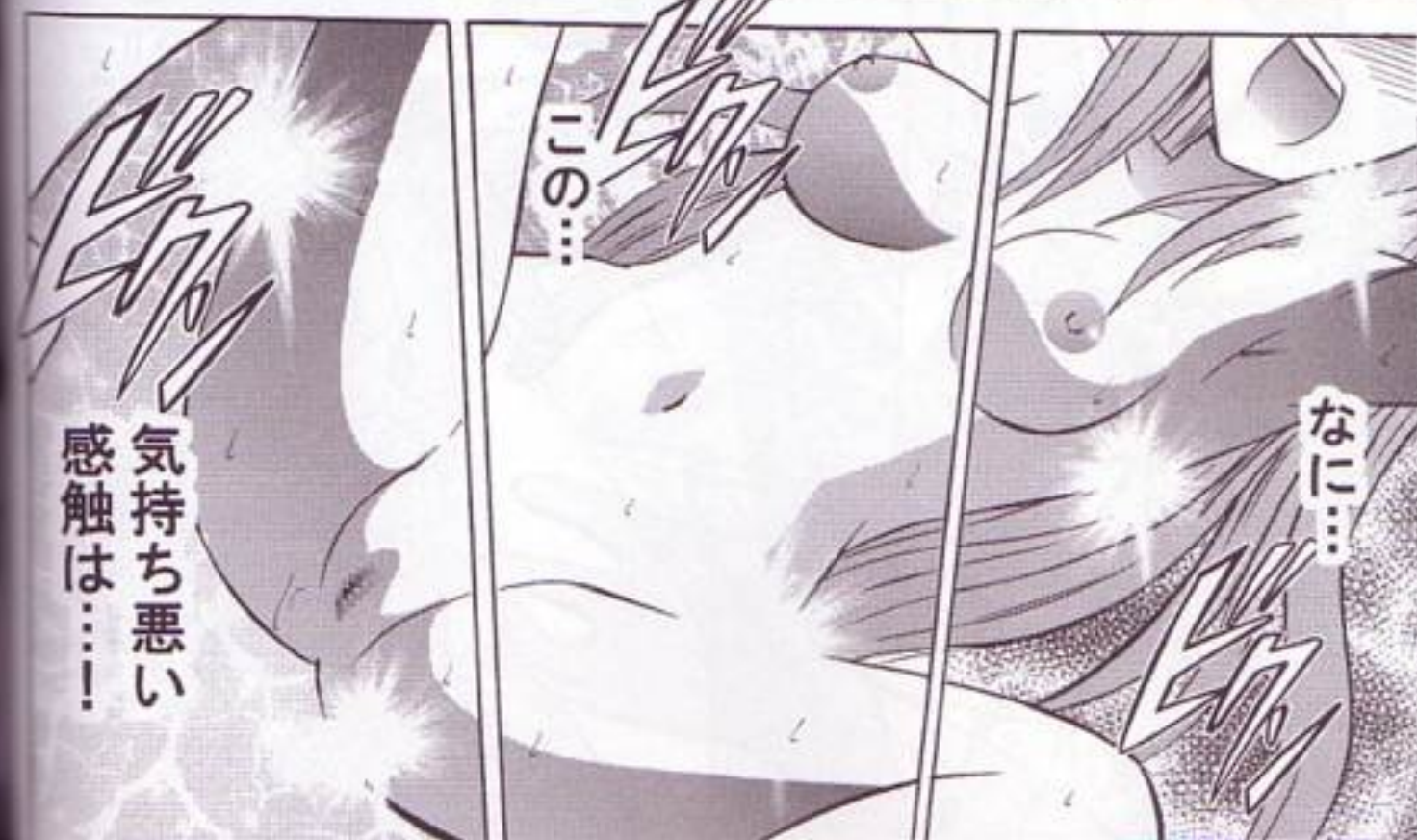
触られるような
感覚が…!!

グキョ

グキョ

パルスバターンを
変えて
みましょうか

ズッ




なに…

いそ…

気持ち悪い
感触は…!!



体中が舐められているような感触が……！



それからFD人は
さまざまな方法で
実験と称した
遊びを続けた

快感パルスを
使ったの

電子パイプを使って
敏感な部分を
ピンポイント攻撃



や...やめて
クリフ!
フェイト!

こうしてやろうと
思っていたんだぜ

視覚効果を使って
精神的にも
責められた

ピチャ

ピチャ

ほあ

ほあ

ググ

ググ

ググ

ググ

ググ

ピチャ

大丈夫かな
マリアちゃん

大丈夫
大丈夫

これ以上
ムリというところで

抑制できるように
プログラムして
あるからね

思う存分
イッていいよ

悪魔だ…
こいつら…

出てきたな

スッ

また
パワーを
上げるかな

私はこんな奴らに
つくられたの…?

ふるふる

ビクッ

ビクッ

そんなの…
絶対に認めない…!!

おお
いいですねあ

グフフフ…

ビクッ



フフフ
そろそろ
機械じゃなく

生身のモノが
欲しくなって
きたんじゃ
ないかな？

…！



誰が…！

貴様らの
モノなんか…！



じゃあこのプラグを
膣内に直接
つけてみよう

ドキッ

あっ！



うーん
ナマイキだなあ

どうしようも
ないですね

チル

粘膜を通してだから
快感の伝達







いやあ
いいねえ
生身の女と
かわらないよ

グチュ

グチュ

どうですか
エターナルスファイアの
女の味は

んっ！

んっ！

いやそれ以上だ

こんな体に

あっ！

レイプし放題
中出し放題
出来るとはねえ

びるびる

ホント
いいものを
つくったなあ

思わぬ
副産物だよ

あっ！

グ
ヂ
ュ
グ
ヂ
ュ

や
め
じ
ー

パ
ン
パ
ン
パ
ン

私の体は
あんたたちの
ものじゃ……
ないッ……！

グ
グ

……

たとえお前たちにも
つくられたとしても



がる
がる

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

私たちには…



がる
がる

意地を張っても
お前は这个世界では
何の権利もない

パラメータは
いじり放題
好きな設定に変えて

何度でも犯して
あげるよ

今日の締めくくり
もう一度
快感バルスを最大で
くれてやろう

精液と
いっしょにな

ひっ！

ガ
ガ
ガ

ガ
ガ
ガ

ガ
ガ
ガ

全身に

性器がつきささられているような感覚が……！

ガ
ガ
ガ

ガ
ガ
ガ

ガ
ガ
ガ

ガ
ガ
ガ





独占欲

作 / カーマイン

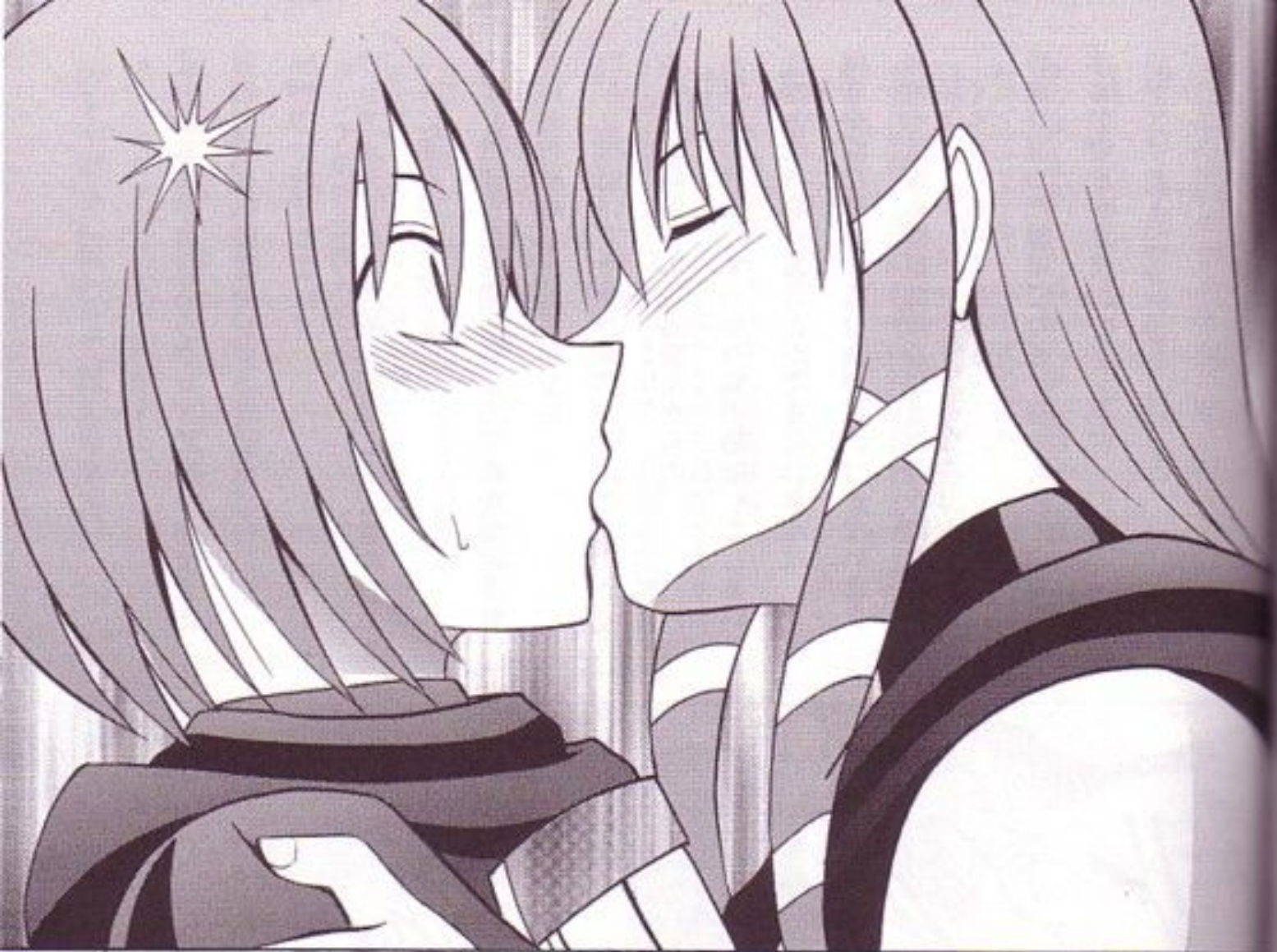
前回のネル本で描きたかったクレア × ネルです。
こういうのも結構スキです。
文章とか直接的な表現が多すぎてヘタでもうしわけないです。
描ききれなかったけど描きたいシチュエーションがあれば
こういったミニ小説のような形で今後もやっていこうかな
と思っています。

「ダメ… ダメだってクレア」
アトリグリフとシーハーツが停戦し
祝賀パーティが行われた夜、
ネルの部屋に入ってきたクレアは突如
ネルの体を後ろから抱きしめた。

はじめはただ酔ったクレアがじゃれついてきただけだと思い
軽いなそうと考えていたネルだったが
クレアの責め方はじゃれつくというようなレベルではなく
右手は柔らかな胸をもみしだき、
左手はネルの制止をかいくぐって秘部を責めようと侵攻してくる。

もぞもぞ

「もう… 酔ってるよクレア。これ以上はダメ…」
あくまで平静をよそおうネル。
しかし無言で続く強引な愛撫に
焦りを感じ始めていた。



クレアの指がついに下着の横をすべりこみ
直に秘裂に触れてきた。

さすがにこれ以上は羞恥に耐えられなかったのか
真剣に抗議しようと、クレアのほうに振り返った瞬間、
壁に押し付けられ強引にキスをされる。

「んんっ！」

キスと同時に口に何か流し込まれた。

みるみるうちに体中の力が抜けていき

クレアにもたれかかるようにしてグッタリとなった。

「ク…レア…あんた…何を……」

「もう…ネルったら…あの人たちとばかり一緒にいて…」

私…どんな気持ちであなたのこと待ってたか…分かる？」

「……………」

「もうはなさないわ ネル」

そう言うとクレアはネルをベッドに寝かせた。

それからのネルはもうクレアの思いのままだった。

力の入らない体はクレアのアヒラを

拒むことができない。

クレアが楽しめる程度の抵抗しかできず

ネルに絶望感がただよう。

クレアは徐々に衣服をやぶって肌を露出させ

ネルの羞恥心をあおりながら

巧みな指使いで快感の虜にしていく。

もつとも信頼している親友からの

まさかの辱めにすっかり気が動転してしまい

正常な思考をすることができないネルは

何も現状を打開する方法が思いつかないまま

何度も何度も快感に飲み込まれそうになる。

—くちゅくちゅくちゅ…

静まり返った部屋でわざと音を大きく立てて

ネルの中をかきまわすクレア。

「やあっ…やめっ…てッ！」



クレアはいやがるネルの足を容易に開いた。

「や…やだ！はなしてクレア！」

「恥ずかしがらないでネル…」

クレアはネルの最も大事な部分に顔を近づけてくる。ネルは恥ずかしくてたまらなかった。クレアはさらに大きく足を広げ、割れ目が裂けて陰核がさらけ出された。

「いやっ…おねがい！見ないで！」

いつもの強気なネルからは想像も

つかない、少女のような声で哀願するネル。しかしクレアは気にもせず、恥部を凝視しそして舌を出しながら顔をさらに近づける。

「いやっ…そこはダメッ！」

何をされるか想像がついたネルはたまたまらず手でクレアの頭を押しとどめようとするが、ほとんど意味がなかった。

クレアの舌が割れ目につく。

「やあっ！」

足は開いたままはなしてもらえない。

そのまま舌を割れ目にそって動かしクリトリスを舌先で刺激する。

体を小刻みに震わせて耐えるネル。



クレアは休まず責め続けた。割れ目からは愛液があふれ出てくる。ネルは確かに感じていた。

「やっ……んっ……やめっ……」 クレアのたくみな舌の動きによって体の自由を奪われ、ただ体をくねらせて耐えるのみだった。舌の動きがさらに激しくなる。足はまだ放してもらえない。クレアはネルの秘部にくちづけししゃぶるように責め立てた。

「あっ！あっ！」 もつとも弱い部分を責められるたびに、ネルは切ないあえぎ声をもらし、体をビクツとのけぞらせる。ネルはとにかく恥ずかしかつた。もうどうしていいのか全然わからなかった。ネルの体は親友の玩具と化していた。

「あっ！ やあっ……！」 クレアはさらに激しく、ネルの言葉がでなくなるほど激しく責め立てた。

清らかな秘所は濡れに濡らされていた。ネルは最後の力を振り絞って体を起そうとするが、クリトリスを舐め上げられると体は反射的にのけぞり、思うように体を動かさなかった。

そうこうしているうちに刺激は頂点に達してきた。

クレアは最後の責めに入った。ネルはほとんど何も出来なくなった。 「あああっ！」 ネルは全身の力がぬけ崩れ落ちた。 結局クレアに無理矢理イカされてしまった。



「たてそうだとしても私達には私達の意志があるのよ…！」



FDI人に捕らえられたマリアは実験と称した辱めを受ける。この世界では何の人権ももたず、パラメータをいじって体を好きなように変えることのできるマリアの存在は彼らにとってこれ以上ないほど都合のいいおもちゃだった。

FOR ADULT ONLY

レイプし放題
中出しし放題
出来るのはおえ